

高齢労働者の安全配慮義務

60 歳以上の労働者では、転倒や墜落による事故が若年層よりも大幅に多く、健康状態の影響で休業期間が長期化する傾向にあります。こうした状況を踏まえ、企業には高年齢労働者の安全管理と健康維持を考慮した対策が求められています。



1. 高齢労働者が抱える健康リスクと安全対策

◆健康管理、作業場の安全確保

シルバー世代の労働災害を事故の型別にみると、男性の場合「**墜落・転落**」の発生率は 20 代平均の約 3.6 倍、女性の場合「**転倒による骨折等**」の発生率は 20 代平均の約 15.1 倍となっています。(2025 年調べ) 身体的な衰え、視力や聴力の低下、女性の場合は骨粗鬆症が進みやすく些細な転倒でも骨折しやすいなどのリスクがあります。**定期的な健康診断や運動プログラムなどの健康管理のサポート**、転倒や転落を防ぐための**作業場の安全確保や作業環境の改善**が安全対策として必要です。

2. エイジフレンドリーガイドライン

◆身体機能などが低下しても安全に働くことができる環境を整える

「**安全配慮義務**」として厚生労働省より「**エイジフレンドリーガイドライン**」が公表されています。従来から取り組まれている労働安全衛生法に基づく対策だけでなく、加齢による身体機能の変化に対応した安全対策や健康確保のためのガイドラインです。

※「エイジフレンドリー」とは「高齢者の特性を考慮した」を意味する言葉

さらに**高年齢労働者の労働災害防止措置が努力義務化**され、**2026 年 4 月から施行**されました。

3. シルバー人材センターの取組み

5つのポイント

1. 安全衛生管理体制の確立等

2. 職場環境の改善

3. 高年齢者の健康や体力の状況の把握

4. 高年齢者の健康や体力の状況に応じた対応

5. 安全衛生教育

◆安全衛生や快適な環境を守るために体制を確立・整備する。

◆労働災害の発生リスクについて、災害事例やヒヤリハットをもとにリスク回避の対策を検討する。

◆身体機能が低下した会員が安全に働き続けることが出来るよう、施設、設備、装置等の改善を検討・対策を講じる。

◆高年齢者の特性を考慮し、作業内容を見直す。

◆会員を対象とした体力チェックを継続的に行う。

◆会員との意見交換を活発に行う。

◆健康や体力の状況に応じて適合する業務をマッチングさせる。